

第56回横幹技術フォーラム報告 —オープンイノベーション活動『豊洲の港』から—

横幹連合理事・横幹技術協議会副会長 板倉 宏昭*

第56回横幹技術フォーラム（主催：横幹技術協議会、横幹連合）は、2020年1月15日（水曜日）15時から17時に、日本大学経済学部7号館講堂にて開催された。

参加者は、29名と年初で大学は授業期間であることもあり少な目であったが有意義な意見交換となった。

技術環境の進展は、著しい。そうした中で、多くの産業界の方や研究者が危機感を持っている。オープンイノベーションによって、内外のリソースを活かして、変革したいという考えを持たれている人が多くなっている。

一方、オープンイノベーションを遂行するには、乗り越えるべき課題がある。NTT データ オープンイノベーション事業創発室室長（現株式会社 InnoProviZation 代表）の残間光太郎様にオープンイノベーション「豊洲の港」の事例や進めるための秘策についてご講演いただいた。

「豊洲の港」は、2013年9月からマンスリーフォーラムやビジネスコンテストという形で100回以上開催されている。起業のコストは10年前の0.1%であり、チャンスが増えている。ミレニウム世代の4人に1人は起業したいといわれており、5人に1人は12か月以内に起業を計画しているという。イノベーター登録者は、4000名以上となっている。

現場の顧客ニーズ等のボトムアップだけではイノベーション案件は出てこない。学会の新進的事例等のトップダウンアプローチも合わせて必要である。

「豊洲の港」を運営するNTT データのオープンイノベーション事業創発室は、知を統合するための組織である。(1) 企画型別組織と(2) 事業部内企画組織という2種類の組織間がある。当室はこのどちらの形態でもない、新たな形態である(3) アクセラレーション型組織として立ち上げた。企画型では、事業部が引き取らない場合が多い。事業部内では、改善だけに終わることが多い。アクセラレーション型組織によって、顧客ニーズに沿った新規ビジネスと切り切った新規ビジネスを企画できる。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大以前の時期であったが、オーディオレスポンスシステムの試行が行われた。当日は、株式会社ブレイブソフトにご協力いただいた。スマートフォン等があればQRコードから参加者画面が表示される。アプリ導入も不要であり、匿名でもコメント質問ができ、質問やコメントが苦手な方でも参加しやすかった。1時間の公演に対して、44の質問やコメントが寄せられた。講演後の討論の時間にすべての質問コメントについて残間様にお答えいただいて盛り上がった。

残間様の講演は、場づくりと継続性の重要性が印象的であった。本フォーラムは、産業振興を考えるよい機会となった。オープンイノベーション活動の中で学会とのマッチング等を通じての産学連携について検討し、今後につなげたい。

*東京都立産業技術大学院大学 東京都品川区東大井 1-10-40

Received: 27 December 2020.